

ロクでなし魔術講師と審判教典

厨二病こじらせた人間

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

まあ羊太郎さんに憧れやってみた駄作。未だに厨二病こじらせてるうp主が書いたものです。あらすじはとまあ…うん、元のロクアカにチートキャラが加わるっていうありきたりなやつですね。学生なので投稿不定期なんでよろしくです。

目次

序章——プロローグ

それはある森の中…

「ピヤツハー！仕留めたぞ！」

「ライトニング・ピアスをノーガードで2発モロにくらって生きてる訳ねえ！」

それは二人の盗賊の男だった。

「これであいつの栄光も終わりだ！」

「これで俺らも名を上げ…なに…？」

森本来であれば森の中に体を撃ち抜かれた死体があるはずなのだ。しかし見当たらない…確かに正確に当たったはずなのに。

「おい！死体がねえぞ！」

「馬鹿な！確かに撃ち抜いたはずだ！」

男二人は困惑してしまう。

「やれやれキミたちあれで不意打ちのつもりかい？」

その声は頭上…木の上から聞こえた

「なっ…てめえ…なんで生きて…」

男が困惑して言う

「はっやれやれキミたちはこの街では強いと噂だけでもやはりそうか…この街での魔術師狩りの犯人はお前らか…まあ予想通りかな…」

その男はフードを深く被っていて顔が見えなかった

「なっなぜそれを…」

「まあ俺が調べてたこの街においての魔術師狩りの事件…必ずにおいて魔術師はこの森の近く…そして2発のライトニング・ピアスで倒されていた…そして今のお前らが撃ったライトニング・ピアス完全にあの時の魔力の波が同じ…自ずとわかるさ」

「クソっ今度こそ外さねえ！死ねっ 《雷帝よ・極光の閃槍以て・刺し穿て》!!」

刹那…2発のライトニング・ピアスが発動し、その男に飛来する…

「死ねええええええええええええええええええええええええええええ!!」

その空気を割く稲妻は男に飛来し…盗賊の男達が殺つたとほくそ笑むが…

そのフード男は…笑っていた

「《轟雷》…」

と言ったその瞬間…全ての稲妻が逆転する…否…フード男が放つた雷に吸収されてそれが男達に飛来する。

「なっ！」

全て…一瞬であった

盗賊は一瞬で雷で灰となった…

「これがお前らに下された審判だ。」

フードを脱ぎ捨て翻すは魔術師の象徴のローブ。そのローブに刻まれし、宮廷魔導師の印…

「さて…フェジテに久しぶりに戻るとするかね！」

その男…この物語の主人公…ルーシヤは久しぶりに帰る街に思いを馳せる…。この前届いた王宮からの任務…この街の事件解決とその後のフェジテのアルザーノ帝国魔術学院の入学…そして王女の護衛である。王女…この国では死んでいるとされている…そして異能者である。

「えーと確かこれは隠密だったから…あつてもセリカがいるから…まあいい…行くか…」

そしてルーシヤはフェジテに向かうため、森を離れフェジテまでの馬車に乗り、フェジテを目指す。

この男の物語が今…始まる――